銀座水族館（七つの海の魚および水産切手）

—(4)—

東京支店　営業第一課　神　原　　勇

サワラ科には

サワラ　*Scomberomorus niphonius*

英名　spanish mackerel

体側中心附近に多くの濃い斑紋がある

カマスサワラ　*Acanthocybium solandri*

英名　wahoo

口吻は著しく突出て，体側には不規則な多くの濃い構縞があり，第一背鰭は構長梯形状を呈し，*Scomberomorus* 属のそれが長三角形状であるので，両属は簡単に識別し易い。

これらの他に，ヒラサワラ・ヨコシマサワラ等 *Scomberomorus* 属のものがあるが省略する。

サワラは第二背鰭と臀鰭から後方の尾鰭にかけて8枚から9枚の離鰭がある事から判る様に，サバ・カツオ・マグロ等の一族の暖流系の回游性の魚である。頭と尾はサバに似ていて，体長は約1mに達するが体高が小さく且平たく細長い形をしていて，腹がほっそりしているので狭腹（サハラ）なる体型よりの語源かと思われる。関西ではサワラの若魚をサゴシと称するがサゴシは狭腰で，関東のサゴチはサゴシのなまりである。

北海道からオーストラリヤにかけて分布し，回游性の魚であるがカツオ・マグロ類の如く広い範囲に亘ることなく，回游の途上で瀬などの潮流の速いところの表層を泳ぎ停留することがある。カマスと同様鋭い歯をもっていて表層のイワシ類などを追って海面上を跳躍する。体の背面は鉛青色で側線は波状で，側面には濃い斑紋があり腹側は銀白色である。

サバ亜目に属するサワラとサバとを比較すると

サバ	サワラ
紡錘形	体高が小さく平で細長い
小さい歯	鋭い歯
赤身	白身
外海遠洋で産卵	内湾で産卵
卵が小さい	卵が大きい

内湾で産卵するサワラの卵が他の魚種に比べて大きい事は生態的には種々有利な面をもっている。

即ち，内湾では魚類や海産動物の生息密度が高く，生存競争が激しいので孵化したときは既に普通の仔魚と比較して大きく而も鋭い歯をもっているので強い仔魚として成長していける可能性をひめている。

サワラは漢字で鰆で春の魚と書くが，季題は晩春の魚で，5～6月のころ内湾に大挙して押寄せ産卵するので流刺網等で多獲される。産卵場所は瀬戸内海の播磨灘・備讃瀬戸等の潮流の早いところで，関東及中部地方近海のものも産卵期が近づくと西へと移り，大群が瀬に集まり明け方近くで水面で音をたてながら産卵し，海面が放精した白子で白くなるほどである。卵は球型の浮游卵で直径1.6～1.9mm で稚魚はそこで成長し半年で約10cm 位になり，1年で約1kg 位になり成長が頗る早い。

1～2月頃のアブラののった寒鰆は美味で，関東では刺身を賞味し関西ではどちらかといえば，照焼やミソづけの様な焼物として用いられる。サワラは肉がやわらかであるので扱い方が乱暴であると身割れし易い。

カマスサワラは鮪延縄にキワダ・メバチと共に漁獲され，刺身では大味なるもミソづけ等の焼物にすれば可成り美味である。

スズキ目　サワラ科

サワラ　：Scomberomorus niphonius　：Spanish mackerel
カマスサワラ：Acanthocybium solandri　：Wahoo

サワラハ日本デハ瀬戸内海ニ多イ。他ノサワラ類（ヒラサワラ、ヨコシマサワラ、カマスサワラ）ガ ややソノ合及外洋性デアルノニ反シ、沿岸ノ濁リタ水ヲ好ミ、イワシ群ヲ追ッテ表層ヲ泳イデ、平常ハ水面カラ3m位ノトコロヲ游ギ。冬ハ深所ニ移動スルガ4～6月頃内湾ニ入リテ産卵スルノデ、ソノ頃多獲サレルガ寒ノ頃モガ最モ美味デアル（寒鰆）

カマスサワラハ全世界ノ温帯カラ熱帯ニカケテ分布スル。外洋性デ表層近クニ棲ミ、群生ハシナイ。サワラニ比ベテ大味デアル。トローリングノ対象魚種ノ一ツデ引キガ強ク、豪快ナ釣ヲ満喫出来ル。

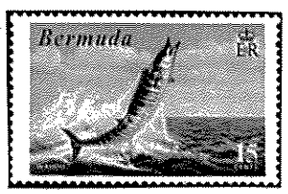
ベトナム -1963
サワラ

トリスタン・ダクンハ -1961
サワラ

サワラ　タークス、カイコス諸島 -1967

サワラ　モンツセラット -1969

カマスサワラ　キューバ -1971



カマスサワラ　バミューダ -1972

カマスサワラ　英領バージン諸島 -1972

カマスサワラ　英領バージン諸島 -1968